

佛國商法講義

第四號

27

27
3

東 京 圖 書 館

新書門

部 類 函 架 號 冊

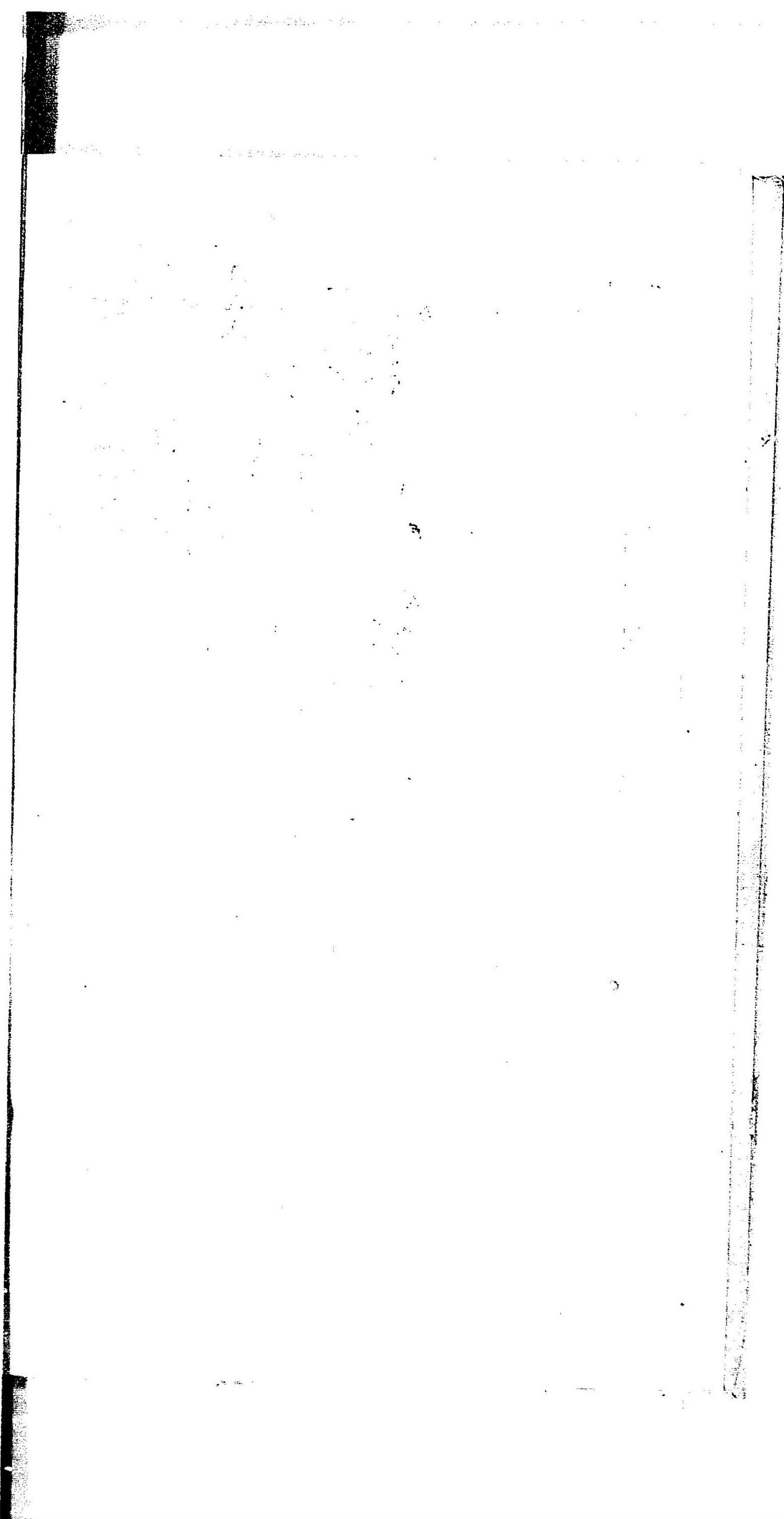
五五

特47

196

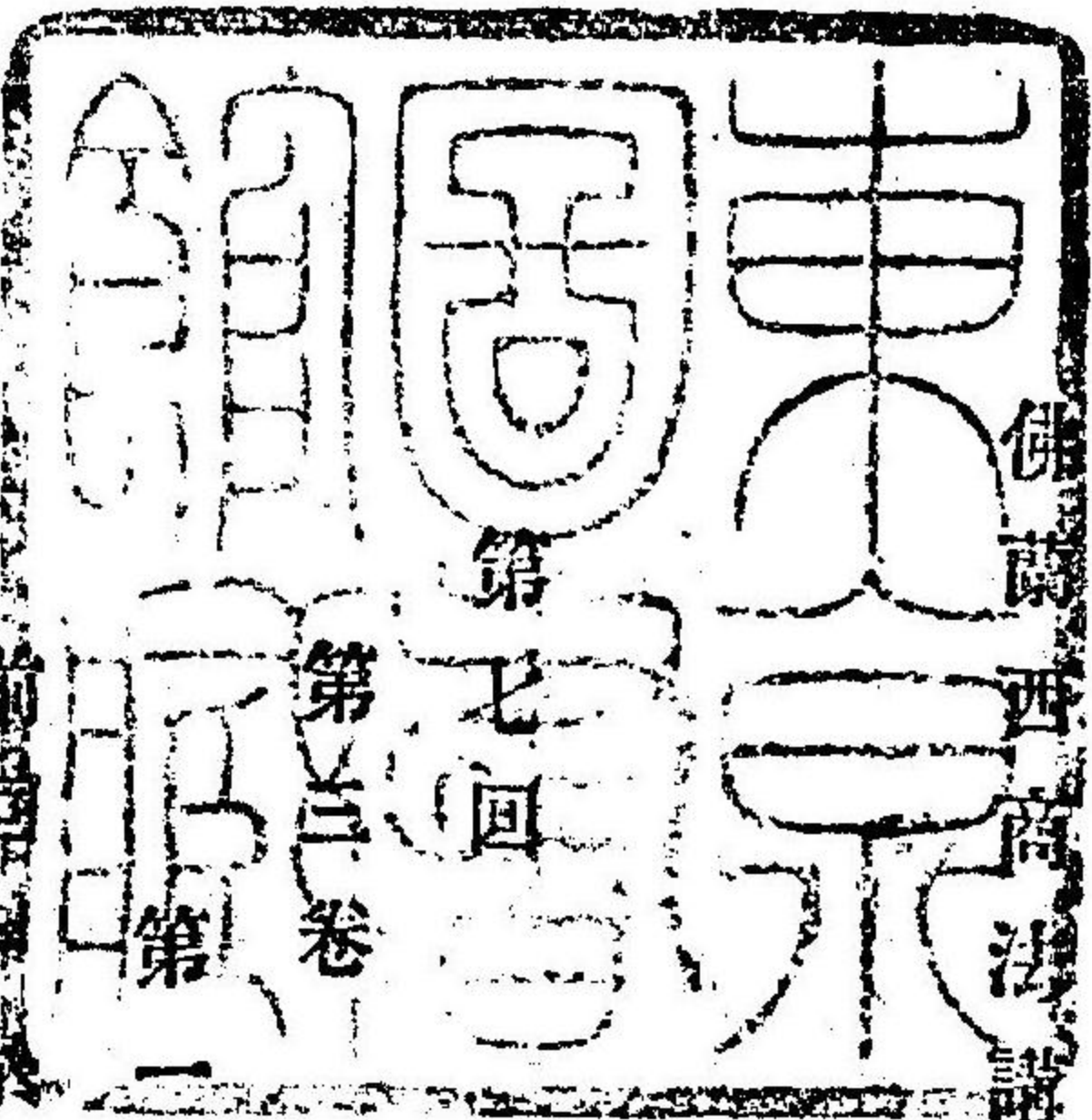
淡川忠二郎講義
大阪法學舍筆記
佛國商法講義

第四號



欠

MISSING



佛蘭西法律講義

澁川忠二郎講義
大阪法學會筆記

會社ノ事

會社ノ種類及ヒ規則

前回は於テ述ヘタルカ如ク今回ヨリハ最モ緊要ニシ
テ諸君ノ最モ注意ヲ要スベキ會社ノ事ヲ講説スヘシ
而シテ會社ノ規則ハ商法ニ載スル所第十八條ニ始マ
リ第六十四條ニ終ル僅々四十餘條ニ過キスト雖モ事
理頗ル繁雜ニ涉ルヲ以テ今之レヲ五題ニ分チ勉メテ
諸君ノ了解ヲ容易ナラシメント欲ス

第一 總論

第二 各種商事會社ノ規則

第三 會社ノ證據及ヒ其公告

第四 會社ノ解散、計算、分派

第五 社員相互ノ間ニ生シタル訴訟ニ關スル裁判

管轄及ヒ會社解散後ニ於テ社員ノ爲メニ用

ユヘキ特別ノ期滿得免

第一 總論

第十八條 會社ノ契約ハ民法商法及ヒ雙方ノ約束ヲ以テ之ヲ定ム

本條ノ明文ニ依レハ商事會社ハ第一双方ノ約束、第二商法、第三民法ニ依リテ創定スルヲ要スルモノトス元

來商法ハ唯商事會社ニ關スル特別ノ規則ヲ示スニ止マルヲ以テ其總則及ヒ組織ニ關スル規則ノ如何ノヲ知ラント欲セハ則チ民法ヲ講究セシムハアル可ラス其他株式差金會社、無名會社、増減資本會社等ノ如キハ皆チ特別ノ法即チ一千八百六十七年七月廿四日ノ法律ニ依ルヘシ

今此總論ヲ講スルニハ甚々長談ニ涉ルヲ以テ先ツ之ヲ分テ二箇ノ題目トナシ逐次ニ講說セントス即チ第一會社ノ義解、第二ハ民事會社ト商事會社トチ分別スルノ利益是レナリ

第一 會社ノ義解

會社トハ二名以上ノ人相結合シ利益ヲ分ツノ目的ヲ

以テ互ニ物件ヲ共通スルノ契約ヲ云フモノニシテ民法第千八百三十二條ニ解釋スル所是ナリ然レ該條ノ解釋ハ未ダ完備ナラサルヲ以テ猶ホ其次條第千八百三十三條ニ之レヲ補テ會社ハ法ニ適シタルヲ以テ目的ト爲スベク且ツ會社中各人ノ利益ノ爲メニ之レヲ爲スヘシト云ヒ又其第二項ニ於テ會社中ノ各人ハ金高又ハ物品又ハ勞力ヲ其會社ニ供スヘシト云ヘリ凡ソ會社ハ即チ一ノ契約ヨリ成ルヲ以テ普通ノ契約ニ必要ナル條件ヲ具備セサルヘカラス故ニ民法第千八百八條ニ記シタル如ク締約者ノ承諾及ヒ能力、正當ノ目的、正當ノ原因ヲ具備スルニアラサレハ決シテ適法ト爲スヘカラス且ツ共分會社ノ契約ヲ除クノ外ハ皆

ナ證書ヲ以テ證明スルヲ必要トス但シ其公式ノ契約ナルカ將タ合意ノ契約ナルカノ問題ハ第三ノ區別タル會社ノ證據ヲ論スル時ニ讓ルヘシ又會社ハ其契約ノ結成スルヤ直チニ社員ノ双方ニ義務ヲ生スルモノナルニ因リ所謂双務ノ契約ニシテ且ツ双方ノ爲メニ利益アルニ因リ要償ノ契約ナリトス
右ニ説明シタルカ如ク總テ普通ノ契約ニ必要ナル條件ヲ備具スルモ未ダ以テ社會ノ契約ヲ成スニ足ラス尙且ツ左ニ叙列スル特別ノ條件アルヲ必要トス

- 第一 差加物件
- 第二 利益ヲ増殖スルノ目的
- 第三 利益ヲ共通スル事

第四 利益ヲ配當スル事

第五 損失ヲ分擔スル事

第六 會社ヲ創立スルノ意思アル事

由テ左ニ逐層之レヲ説明スヘシ

第一 差加物件

凡ソ會社ヲ創立セント欲セハ共同シテ其會社ノ資本タルヘキ物ヲ差加ヘサルヘカラス故ニ一方ハ資本ヲ差出スヘキモ若シ他ノ一方ニ於テ之ヲ差加ヘサルハ決シテ會社ヲ組織スヘカラス例ヘハ茲ニ甲者ハ若干ノ資本金ヲ差出シ乙者ハ之レヲ差出サ、ルノミナラス勞力ヲモ供セスシテ唯々甲者カ差出シタル所ノ資本ヨリ生スル利益ヲ共通セントスル約束ノ如キハ

決シテ會社ノ契約ニアラスシテ純然タル贈遺ノ契約ナルヲ以テ會社ノ規則ニ依ラス總テ贈遺契約ノ規則ニ支配セラルヘキモノナリ故ニ會社ノ契約ハ必ス双方共ニ資本ヲ差出ストナキ要ス
差加物件トハ金額又ハ其他ノ財産又ハ勞力等ヲ云フ且ツ商業ニ敏捷篤實ノ名ヲ得テ衆人ニ歸依セラル、所ノ信用モ亦タ差加物件トナスヲ得ヘシ
然レモ信用ヲ以テ資本ニ代用スルニ付キテハ異論者ナキニアラス故ニ今一言之ヲ辯スヘシ其異論者ノ說ニ曰ク民法第千八百五十三條ニ會社ヲ結フノ証書ニ社中各人ノ得ヘキ利益ト其擔當スヘキ損失ニ付キ別段其割合ヲ定メタルヲナキ時ハ其各人カ會社ノ資本

中ニ加入シタル高ニ準シ云々勞力ノミチ會社ニ供シタルモノ、得ヘキ利益及ヒ損失ノ割合ハ會社ノ資本中ニ最も少量ノ高チ加入シタルモノ、割合ニ等シトス」トアリ是レ法律ニ於テ勞力ノ價直チ測定シテ最も少量ナル資本ニ等シト做シタルヲ以テ之レニ由テ利益ノ分派チ行フヲ得ル者ナリ今單ニ己レノ名義ノミチ會社ニ差加ヘタルマデニシテ資金チモ入レス勞力チモ加ヘサル者ノ如キハ其信用名義ノ價值タル最も多量ノ資本ニ等シト爲スヘキカ將タ少量ニ等シト爲スヘキカ法律上之レチ測定シタルノ明文ナク到底利益ノ分派チ行フニ當リ茫手トシテ標準ナケレハ以テ資金ト爲ス可ラスト此論一理アルニ似タレトモ今

一般ノ公論ニ依レハ信用モ亦タ資本ニ代用スルヲ得ヘシトナス其理由如何トナレハ元來人ノ信用ハ固ヨリ無形ニ屬スルヲ以テ其價值チ測定スルハ有形物ノ如ク容易ナラザレハ亦タ必スシモ測定ス可ラサルニアラス若シ會社チ組成スルニ當リ社員一同協議ノ上他人ノ差出シタル資本ト比較シ或ハ其最も多量ニ等シキモノトシ或ハ其最も少量ニ等シキモノトスルカ又ハ其中間チ取テ其信用ノ價值チ定メタルトキハ敢テ差岡ナカル可シ若シ又社員ノ協議チ以テ定メタルヲナケレハ裁判官ノ判定ニ任スヘシ看ルヘシ世人己レノ名譽チ毀損セラレタル者アレハ輒チ名譽回復ノ訴訟チ起シ償金チ要ムルニアラスヤ若シ論者ノ說

ノ如ク信用ノ價值ハ法律上測定シタル明文ナキヲ以テ終ニ其價值ヲ測定スルヲ得ストセハ其毀損セラレタル名譽ノ償額モ亦タ終ニ測定スルヲ得スト云ハサルヲ得ス然ルルハ假令ヒ名譽ヲ毀損セラレ、アルモ賠償ヲ要ムルヲ得サル筈ナリ豈ニ斯クノ如キノ理アラザヤ故ニ人ノ信用モ亦タ資本ニ差加フルヲ得ヘシト云フナリ

又社員ノ差加ヘタル資本ノ性質ニ依リ社員ト會社トノ關係ニ付テ種々ノ差異アリ今之レヲ左ニ説カン

其一 確定物ノ所有權ヲ差加ヘント約シタル時此場合ニ於テハ社員ト會社トノ關係ハ猶ホ賣主ト買主トノ如ク一旦其資本トシテ確定物ノ所有權ヲ差加

ヘント約諾シタルルハ其物件ノ所有權ハ直チニ會社ニ移轉スルヲ以テ未タ必スシモ實際物件ヲ引渡サ、ル以前ト雖モ其物件ノ損失ハ會社ニ於テ負擔セサルヲ得ス例ハ今余ハ一ノ家屋ヲ會社ノ資本ニ差加ヘント約シテ未タ其引渡ヲ爲サ、ル以前ニ天災又ハ抗拒スヘカラサル災禍ニ由リテ其家屋ノ滅盡シタルルハ余ハ物件ノ滅盡シタルカ爲メニ之レヲ引渡スノ義務ヲ免カレタルモ尙ホ會社ニ對シテ其家屋ノ價值丈ケノ權利ヲ有シ利益ノ一部分ヲ收受スルヲ得ヘシ故ニ總テ約諾アリタル上ハ其物件引渡ノ前後ヲ問ハス意外ノ變災ニ因リ資本ノ一部ノ滅盡スルヲアルモ會社ハ仍ホ存續スヘシ何トナレハ社員ハ猶ホ會社ニ之

レヲ賣渡シタルト同一ノ結果ナレハナリ
 又社員ハ會社ニ對シ賣主ト均ク己レノ差加ヘタル物
 件ヲ他人ヨリ奪取セラル、原因ナキト及ヒ人目ニ觸
 レサル不長ノ箇所ナキト擔保スヘキノ黙諾ノ義務
 アリトス故ニ若シ正當ノ原因アリテ他人ヨリ之レヲ
 奪取セラル等ノトアレハ他ノ社員ハ其會社ヲ解止シ
 テ相當ノ償ヲ要ムルヲ得ヘシ是レ民法第千八百四
 十五條ニ定ムル所ナリ

其二 確定物ノ入額所得權ヲ差加ヘント約シタ
 ル時

入額所得ノ權ヲ會社ニ差加フルトハ毎年田地ヨリ生
 スル所ノ収納物ヲ得ル權利ヲ會社ノ資本ニ差加ヘン

ト約スルノ類ナリ

此場合ニ於テハ前ニ説明シタル所有權ノ例ト同一ナ
 リ何トナレハ入額所得ノ權ハ即チ所有權ノ支分ニシ
 テ所有權ニ關スル規則ハ亦タ其支分權ニモ適用スヘ
 ケレハナリ故ニ其差加ヘント約シタル權利ノ目的タ
 ル物件ハ他ヨリ奪ハル、トナク且ツ不長ノ廉ナキト
 チ擔保スルノ義務アリ又其元物引渡ノ前後ニ關セス
 若シ意外ノ變災ニ罹リテ滅盡シタルキハ會社ハ其入
 額所得ノ權ヲ失フヘシト雖モ仍ホ其社員ニ對シテ利
 益ヲ分配スルノ義務ヲ負フヘシ但シ其元物ノ所有權
 ハ其所有者タル社員ノ損失タルト勿論ナリ何トナレ
 ハ其所有權ハ會社ニ轉移シタルニ非レハナリ

茲ニ又入額所得權ニ類似スルモノアリ之レヲ準入額所得權ト云フ是レハ米麥其他酒類ノ如ク使用スルニ依リテ耗盡スヘキ物件又ハ歲月ヲ經ルニ從ヒ自然ニ性質ノ粗惡ニ至ルヘキ麻布等ノ類其他都テ引渡ノ當時評價シ置キタル物件等ヲ入額所得ノ元物ト做シテ會社ニ引渡スノ契約ヲ云フ此場合ニ於テハ其物件ノ所有權ハ會社ニ轉移スルヲ以テ天災ニヨリ其物件ノ滅盡シタルハ獨リ會社ニ於テ其損失ヲ擔當シ會社ハ解散ノ時ニ至リ其所有者タリシ社員ニ對シテ嘗テ請取リタル所ノ物件ト同種類ノモノ又ハ最初評價シタル價額ヲ返還スヘキ義務アリトス是レ民法第千八百五十一條ニ定ムル所ナリ

其三 確定物ノ利益ノミヲ會社ニ差加ヘント約

シタル時

此場合ニ於テハ會社ト社員トノ關係ハ猶ホ貸貸人ト賃借人トノ關係ノコトシ社員ハ其物件ヲ引渡スモ未ダ其義務ヲ盡シタリト云フヲ得ス尙ホ會社ノ存續スル時間ハ終始之レヲ使用シテ安穩ニ利益ヲ得セシムヘキノ義務アリ假令ハ自己ノ家屋ヲ供シテ會社ノ使用ニ充ンテ約シタルカ如ク其社員ノ差出スヘキ資本ハ一時ニ其効ヲ見ルヲ得ス日毎ニ繼續シテ差加フヘキモノトス而シテ其社員ハ他人ノ爲メニ之レヲ奪取セラレ、トナキ旨ト其物件ノ用方ニ適當ナルコトヲ擔保シ且ツ其物件ノ修復モ亦タ自己ニ於テ擔當セサ

ルヘカラス
 又其物件引渡ノ前ニ於テ減盡シタルモ其資本ハ毫
 モ効ヲ顯ハサ、ルヲ以テ會社ハ固ヨリ結成セサルモ
 ノトス若シ又其物件ノ引渡後ニ至リテ減盡シタルモ
 ハ會社ハ一旦結成シタルニモセヨ其物件ノ減盡ニ依
 リ直チニ解止セサルヘカラス何トナレハ其社員ハ最
 早將來ニ向ヒ會社ヲシテ利益ヲ得セシムルヲ能ハス
 恰モ其約束シタル物件ヲ差加ヘサルト同一理ナレハ
 ナリ又會社ニ於テモ元來確定物ノ義務者ナルヲ以テ
 其物件ノ減盡シタルモ別段償ヲ出スヲナク之ヲ
 返還スルノ義務ヲ免カルヘシ是レ民法第千八百四十
 七條ニ定ムル所ナリ

其四 不確定物ノ所有權ヲ差加ヘント約シタル
 時

不確定物トハ米麥何石又ハ酒油何樽ト云フカ如ク單
 ニ其種類ト分量トヲ指定メテ契約ノ目的トスルモノ
 ナリ此場合ニ於テハ果シテ其物件ヲ引渡シ了リタル
 上ニ非サレハ會社ノ所有トナラサルカ故ニ引渡前ニ
 減盡シタルモ其會社ニ於テ關係ナシ由テ其社員ハ仍
 ホ同一ノ物品ヲ購フテ會社ニ引渡サ、ルヲ得ス之レ
 ニ反シ若シ引渡ノ後ニ至リテ減盡シタルモ其會社
 ノ損失タルヘシ

第八回

其五 金額ヲ差加ヘント約シタル時

此場合ニ於テハ普通法ニ異ナルニ箇ノ例外アリ即チ左ノ如シ

- 一 普通法ニ於テハ民法第一千五百十三條ニ依リ金額ヲ拂フヘキ義務者ハ催促狀ヲ受ケ又ハ裁判所ニ出訴セラレタル時ニ至リ始メテ怠リノ咎メアリトシ其日ヨリ息銀ヲ拂フヘキノ義務ヲ生スト雖モ會社ノ社員ニ於テハ之レニ反シ其金額ヲ差加フヘキ期日來ルルハ別ニ催促狀等ヲ受クルコトナキモ其期日ヨリ當然息銀ヲ拂フヘキノ義務ヲ負フ
- 二 普通法ニ於テハ義務者己ニ怠リノ咎メアリトセ

ラレ之レカ爲メニ權利者ニ對シ如何ナル損害ヲ生
 スルコトアルモ唯法律上定メタル百分ノ五ノ息銀ヲ
 拂フノミニテ可ナレトモ會社ノ社員ニ於テハ全ク
 之レニ反シ其金額ノ差加ヘテ遲延シタルカ爲メニ
 會社ノ受ケタル損害及ヒ失フタル利益ヲ償フヘキ
 ノ義務アリトス其然ル所以ノ者ハ會社ノ資本ハ轉
 ヲ之レヲ利用シ通常ノ貸金ヨリモ尙ホ一層廣大ナ
 ル利益ヲ得ントスルノ目的ニ出テタルモノニシテ
 其期日ニ至リ差加ヘテ遲延シ會社ヲシテ之レカ運
 用ノ便ヲ失ハシムルハ唯タニ其利益ヲ失フコトア
 ルノミナラス遂ニ希圖シタル所ノ目的ヲモ達スル
 コトヲ得サルニ至レハナリ是レ民法第千八百四十六

條ニ定ムル所ナリ

其六 勞力ヲ差加ヘント約シタル時

此場合ニ於テハ民法第千八百四十七條ニ記スルカ如
 シ會社ノ目的タル事業ニ付キ其社員ノ勞力ニ因リテ
 得タル所ノ利益ハ總テ會社ニ對シテ計算スヘシ例ヘ
 ハ茲ニ造船會社ヲ創立スルニ當リ船大工其社員トナ
 リ資本トシテ自己ノ勞力ヲ差加ヘント約シタルハ
 其船大工ノ工賃ハ都テ之レヲ會社ノ利益トスルカ如
 シ

凡ヘテ勞力ヲ以テ目的トスル所ノ資本ハ確定物ヲ以
 テ資本トスルノ場合ニ異ナリテ一時ニ之レヲ差加フ
 ルコトヲ得ス必ス漸次ニ繼續シテ以テ始メテ其効ヲ生

スヘキモノナレハ會社ノ終リニ至ラサレハ幾何ノ資本ヲ加ヘタル乎ハ決シテ評定スヘカラス而シテ社員ニ於テモ若シ其中間ニシテ怠リタルキハ會社ハ之ニ對シテ償ヲ要ムルノ權アリト雖モ其社員ニ於テ疾病又ハ其他ニ事故アリテ爲メニ勞力ヲ繼續呈供スルヲ能ハサルニ至リシキハ會社ハ解散スヘシ何トナレハ嘗テ約シタル資本ヲ差加ヘサルニ異ナラサレハナリ是レ民法第千八百四十七條ニ記スル所ナリ

以上ニテ差加物件ノ一ハ全ク説了セリ然レモ第二ノ區別ニ移ルノ前ニ於テ一言述フヘキコアリ其ハ社員ノ義務ト會社ノ義務ナリ抑モ差加物件ハ前ニモ説キタル如ク會社ハ之レヲ運用シテ利益ヲ収入スルカ爲

メニ供ヘ置クヘキモノナレハ固ヨリ社員一己ニテ擅ニ使用スルコトヲ許サ、ルナリ故ニ社員タルモノ擅ニ其資本ヲ費消セシキハ其費消シタル日ヨリ會社ニ對シテ其息銀ヲ拂フノ義務アルノミナラス尙ホ之レカ爲メニ會社ニ損害ヲ來シタルキハ前ニモ述ヘタル如ク別ニ之レヲ償ハサルヲ得ス是レ民法第千八百四十六條第二項ニ定ムル所ナリ其他社員タルモノハ己レノ過失ノ爲メニ會社ニ損失ヲ加ヘタルキモ亦之レヲ償フヘシ此場合ニ於テハ民法第千八百五十條ノ規則ニ因リ假令己レノ勞力等ニ依リ會社ニ利益ヲ與フル所ノ社員ト雖モ此ノ利益ト此ノ損害トヲ相殺スルコトヲ得ス何トナレハ社員カ其勞力等ニ依リ會社ヲ

テ利益ヲ得セシムルハ則チ社員當然ノ職務ニシテ今
 又更ニ賠償ノ義務ヲ負フカ如キハ一身ニ二個ノ義務
 ナ併有スルモノナレハナリ
 又會社ニ於テモ社員ニ對スルノ義務アルヘシ即チ社
 員カ會社ノ爲メニ金ヲ出シタルキハ會社ハ民法第千
 八百五十二條ニ依リ之レヲ償フノ義務アルノミナラ
 ス其會社ノ事務ニ付キ正實ニ負擔シタル所ノ義務及
 ヒ其會社ノ事務ヲ取扱フカ爲メニ止ムヲ得スシテ受
 ケタル損失モ亦タ之レヲ償ハサルヲ得ス例ヘハ會社
 ノ爲メニ旅行スルニ當リ若シ盜賊ニ會フテ所持ノ物
 品ヲ奪ハレタルキノ如キハ會社ニ於テ之レヲ償フヘ
 キカ如シ

是レヨリ第二ノ區別ニ移ラン

第二 利益ヲ増殖スルノ目的

會社ハ自己ノ利益ヲ増殖スルヲ以テ目的トセサルヘ
 カラス故ニ或ハ其組織ノ會社ト能ク相似タルモ其目
 的トスル所ハ利益ヲ増殖セントスルモノニアラサル
 以上ハ法律上ニ於テハ之レヲ會社ト認メス偶マ會員
 中ニ於テ爭論ヲ生スルヲアレハ即チ普通ノ民法ニ隨
 ヒ契約篇ノ規則ヲ以テ支配スルニ止マリ決シテ此會
 社ノ規則ヲ適用セサルナリ去レハ數人相集リ互ヒニ
 其不幸ヲ救助センカ爲メ取結フ處ノ契約ノ如キハ元
 來共通ノ利益ノ爲メニ之レヲ定ムルモノナリト雖ヒ
 唯タ各人ノ不幸ヲ相救ヒ共ニ分擔シテ財産ノ減少ヲ

閑防スルノ目的ニ止マリ未タ双方ニ利益ヲ増進セシ
トスルノ目的ニ非レハ會社ト爲スヲ得ス其他教會、
救恤會、貧民教育會ノ如キ數人相謀リ互ヒニ資本ヲ投
シテ事業ニ從事セントスルモ固ヨリ社員共同ノ利益
ヲ増殖セントスルノ趣旨ニアラサルヲ以テ法律上會
社ノ名稱ヲ下スヲ得サルナリ

第三 利益ヲ共通スル

會社ノ契約ハ共通ノ利益ノ爲メニ結フヘキモノナレ
ハ各社員ハ相互ニ其資本ノ運用ニ由リテ生スル所ノ
利益ヲ共通セント希圖セサルヘカラス故ニ數人相集
リテ俱ニ資本ヲ差加ヘ外面ヨリ其組織ヲ見レハ恰モ
會社ニ相類似スルモ社員ニ於テ更ル々其利益ヲ收受

スルカ如キ者ハ決シテ會社ト云フヘカラス例ヘハ數
人各自商用ノ爲メニ一万圓ノ資本ヲ共通シ甲ハ初年
ニ之レヲ使用シテ其利益ヲ得乙ハ第二年ニ之レヲ使
用シ丙ハ第三年ニ之レヲ使用スルカ如キ各社員更ル
々其利益ヲ占得スル所ノ契約ハ所謂會社ニアラス何
トナレハ甲ハ其資本ヲ利用シテ利益ヲ受クヘキモ乙
ハ充分ノ所得ナシ丙ハ却テ損失ヲ受クルヲアルカ如
ク社員各人ノ損益ニ異同アルヤモ保スヘカラスシテ
會社ノ趣旨ニ合セサレハナリ又甲乙互ヒニ資本ヲ投
シテ一艘ノ汽船ヲ購求シ内海運搬ノ業ニ從事シ其一
月ハ甲之レヲ使用シ其翌月ハ乙之レヲ使用スルト云
フ契約ノ如キモ亦タ其理前例ト同一ニシテ會社ニ非

ラズ會社ハ必ラス其利益ヲ共通スヘキモノナリ

第四 利益ヲ配當スルコト

各社員ハ必ス利益ノ配當ヲ得ンコトヲ望マサルヘカラ
 ス故ニ社員中ノ一人ハ其利益ノ全部ヲ受ケ他ハ更ラ
 ニ其配當ヲ受ケサルノ契約ハ所謂獅子會社ナルヲ以
 テ民法第千八百五十五條ニ依リ固ヨリ其効ナカルヘ
 シ獅子會社トハ西土往古ノ小説ニ三頭ノ獸アリ偶マ
 一菓ヲ拾ヒ得タルニ因リ之レヲ分配セントスルニ當
 リ其中獅子一匹アリ自カラ之レヲ三分シテ其一部ハ
 我先ツ之レヲ發見シタルヲ以テ之レヲ取リ又其一部
 ハ我空服ナルヲ以テ之レヲ取リ又其一部ハ我レ獅子
 ナルカ故ニ之レヲ取ラント云ヒシトアルニ由テ其名

稱ヲ得タリ又往古歐洲ニ一種ノ會社アリテ之レヲ(ト
 ソナース)ト云フ此會社ノ如キモ今日ニ在リテハ決シ
 テ會社タルヲ得ス其故ハ數人相集リテ資金ヲ投シ殘
 生者ヲシテ先死者ノ差加ヘタル總高ヲ占得セシメ
 ナスルノ契約ナレハナリ故ニ會社ニ於テハ必ス社員
 各人ニ利益ヲ分配スルコトヲ要ス其方法ハ民法第千八
 百五十三條ニ從ヒ先ツ双方各自ノ契約ニ依ルヘク若
 シ別段ノ契約ナキ場合ニ於テハ各人ノ資本中ニ差加
 ヘタル高ニ準シテ之レヲ定ムヘシ又其勞力ヲ差加ヘ
 タル者ノ割合ハ資本中ニ最モ少量ノ高ヲ差加ヘタル
 者ノ割合ニ均シトセリ但シ歐羅巴ノ形勢ハ此ノ法律
 編成ノ頃ト一變シ近來ニ至リテハ資金餘アリテ人ノ

技備ヲ貴重スルコト昔日ノ比ニアラス故ニ實際ニ於テハ勞力ヲ差加ヘタルモノ、利益ハ資金ヲ差加ヘタル者ヨリ多キヲ以テ契約ノ常トス

第五 損失ヲ分擔スルコト
社員ハ皆テ會社ノ損失ヲ分擔セサルヘカラス故ニ其損失ハ社員中或ル者ニ於テ之レヲ擔當シ他ノ者ハ之レヲ免カル、カ如キ契約ハ亦タ民法第千八百五十五條ニ從ヒ其効ヲカルヘシ何トナレハ會社ノ性質タルヤ索ト社員一同ノ利益ヲ共分スルノ目的ニ出ルモノニシテ其利益ヲ失フニ當リ損失ヲ分擔スルカ如キハ道理ノ自然ニ出テ必ス避クヘカラサルノ結果ニシテ利益アレハ之レヲ収メ損失アレハ之レヲ擔當セスト

云フカ如キハ自然ノ詭サ、ル所ナレハナリ而シテ此ノ損失ヲ擔當スルノ割合モ猶ホ前例ニ同シ

第六 會社ヲ成スノ意思アルト

此條件ハ法律ニ於テ明記スルコトナシト雖モ會社ノ契約ニ必要ナル猶ホ以上五ヶノ條件ニ異ナルコトナシ故ニ共同シテ物件ヲ差加ヘ利益ノ増殖ヲ希圖シ利益ヲ共通シ利益ヲ配當シ損失ヲ分擔スル等ノ條件ヲ具備スルモ未タ會社ノ契約トナスニ足ラス尙ホ此第六ノ條件ヲ加ヘサルヘカラス諸君モ知ラル、如ク商人カ其手代番頭ニ別段一定ノ給料ヲ附與セスシテ唯タ利益ノ何分ヲ與フヘシト云フカ如キハ世上其例ニ乏シカラス今此契約ヲ分拆スレハ以上五ヶノ條件ヲ具備

スルト雖も唯だ一ノ勞力賃貸ノ契約タルヲ知ルルニシテ
 譬へハ余ハ時計商賣ヲ營マントスルニ當リ手代番頭ニ一定ノ給料ヲ與ヘス之ヲ代フルニ毎半期間ニ収ムル所ノ利益ノ百分ノ十ヲ以テスベキヲ約束シタリトセン此場合ニ於テハ余ハ其資本トシテ商品又ハ金額等ヲ差加ヘ手代番頭ハ勞力ヲ差加フルヲ以テ第一ノ條件ヲ具備シタリ又利益ヲ増進スルヲ目的トスルニ由リ第二ノ條件ヲ具備シタリ又共通ノ利益ヲ謀ルヲ以テ第三ノ條件ヲ具備シタリ又其資本ヨリ生シタル所ノ利益ヲ各自ニ配當スルヲ以テ第四ノ條件ヲ具備シタリ且損失アルトハ余ハ其商品及ヒ金額ヲ失ヒ手代番頭ハ勞力ノ効ヲ失フヲ以テ第五ノ條件

ヲモ具備シタリト謂フヘシ然レモ雇主雇人共ニ素ヨリ會社ヲ組立ルノ意思ニ非サルヲ以テ會社ト爲スヲ得ヌ唯だ勞力賃貸ノ契約ニ過キサルノミ
 由テ其會社ト相異ナル結果ヲ生スルヲ左ノ如シ
 一 雇主ハ其商業ヲ廢スルヲアルモ雇人ハ故障ヲ述フルヲ能ハサルハ勿論其資本ノ配當ヲ要求スルノ權利ナシ會社ニ在テハ之レニ反シ各社員ハ己ノ擅斷ニテ其營業ヲ廢スルヲ得サルハ勿論ナリト雖も會社解散ノ際ニ當テハ各其資本ノ分配ヲ受クルノ權アリ
 二 雇主ハ其雇人ヲ解放スルヲ得ヘシト雖も會社ニ在テハ其社員ヲ退クルヲ得ヌ

三

雇主ノ家資分散ヲ爲シタルトキハ雇人ハ其債主
 中ニ加入シ己レノ得ヘキ利益ノ分配ヲ要求スルコ
 トヲ得ヘシト雖モ會社ノ社員ハ之レヲ爲スト能ハサ
 ルノミナラス殊ニ無限責任ヲ負フル社員ノ如キハ
 己レノ私財産ヲ以テ會社ノ負債ヲ償フノ義務アリ
 斯クノ如キ結果ヲ生スルカ故ニ右ニ述ヘタル第六ノ
 條件ハ會社ヲ組立ルニ關シヘテサル要件ニシテ之レ
 ヲ加ヘサルヘカラス

又民法第七百六十三條ニ從ヒ土地ノ貸借主ト貸借
 主ト其土地ヨリ生スル利益ヲ折半セント約シタル時
 ノ如キハ稍ヤ會社ノ契約ニ類スル所アルカ如シト雖
 モ亦タ會社ニアラス唯タ貸借ノ契約ニ過キヌシテ貸

主ノ其利益ヲ折半スルハ即チ土地ノ貸借ナリ
 以上講述スル所ニテ會社ノ契約ニ必要ナル條件ヲ説
 キ了リタレハ今ヤ第二ノ區別ニ移ラントスルニ際シ
 先ツ其表面會社ト相類似シタルモノヲ掲ケテ其異同
 ヲ明瞭ナラシメントス
 爰ニ財産共有ナルモノアリテ其表面ヨリ觀ルルハ會
 社ト相類似スルト雖モ其性質ヲ問ヘハ則チ二者判然
 タル區別アリ今其最モ著シキ差違ヲ舉ケテ左ニ之レ
 ヲ説クヘシ

- 一 會社ハ必ス契約ニ依リテ成立ツモノナレハ前キ
 ニ講述シタルカ如ク一般ノ契約ニ必要ナル條件ハ
 勿論特ニ會社ノ契約ニ必要ナル條件ヲモ具備セザ

ルヘカラス之レニ反シテ財産ノ共有ハ必スモ契約ニヨリテ發生スルニ非ス準契約ヨリ生スルモノ頗ル多シ例ヘハ茲ニ兄弟姉妹相共ニ一ノ遺物ヲ相続シテ未ダ之レヲ分配セス又ハ數人ニテ他人ヨリ贈遺ヲ受ケ各自ニ之レヲ分配セサルモ如キハ所謂財産共有ニシテ之レカ爲メニ固ヨリ双方ノ承諾或ハ能力等ヲ要セサルナリ

二

又共有ノ契約ヨリ生スルモノアリ即チ數人共同シ一區ノ田地ヲ買得シテ各自ニ之レヲ分割管理スルノ煩勞ヲ省カンカ爲メニ之レヲ共有ト爲スモノアリト雖モ仍ホ會社ト同一ナルヲ得ス抑モ財産共有ハ其財産ヲ分配シテ各自ニ所有スルノ利益僅少

ナルノミナラス又之レヲ分ツノ不便ナルヨリ互ヒニ之レヲ共通坐守スルノミニシテ更ニ之レヲ作用運轉セサルニ因リ一般財産ノ不融通ヲ生シ且ツ數人相互ヒニ一ノ財産ヲ共有スルモハ之レヲ保存スルニ自己ノ財産ノ如ク懇切ナラサルヨリ自然ニ卑劣ニ陥リ又之レニ改良ヲ加フルノ點ニ就テ云フモ其利益ノ自己ニ適切ナラサルヨリ自ラ之レヲ等閑ニ附シ去ルハ人情ノ免カレ得サル所ニシテ遂ニ一國ノ富ヲ減少スルニ至ルヲ以テ法律ハ之レヲ制限シ設ク何時ニ限ラス分離セント求ムルヲ許シ假令ハ契約上ニ共有ノ期限ヲ定メタル時ト雖モ五ヶ年以上ハ其契約ヲ遵守スルニ及ハサルト定メ力

メテ分離ヲ恣憑スレトモ會社ハ全ク之レニ反シ其
 共通ナル資本ヲ轉々利用シテ利益ヲ収メ以テ之レ
 ヲ配當セントスルノ目的ニ出ツルモノナレハ自カ
 ラ一般財産ノ繁殖ヲ計リ社會ノ公益ヲ増進スルヲ
 以テ法律ハ其旺盛ニ至ラントテ希圖シ財産共有ノ
 如ク其存續ノ期限ニ關涉セサルカ故ニ固ヨリ契約
 ニ特定セシ期限ニ到ラザレハ社員タルモノ隨意ニ
 退社スルヲ能ハス又其資本モ契約滿期ニ至ルマテ
 ハ之レヲ其會社ニ差出シ置カサルヘカラス

三

會社ハ通常其人ヲ撰テ設立スルニ因リ若シ社員
 中ノ一人死亡スルハ民法第千八百六十五條ノ第
 五項ニ依リ自カラ解散シ且ツ總社員ノ承諾アルニ

非レハ他人ヲシテ己レニ代ラシムルヲ得スト雖
 此財産共有ニ於テハ之レニ反シ始メヨリ共有者ハ
 互ニ其人ヲ撰ミタルニ非ルノミナラス數人ニシテ
 他人ヨリ一ノ贈遺ヲ受ケタル場合ノ如キハ互ヒニ
 其面ヲモ相識ラサルモノモアレハ其人ニ關係ナキ
 一ハ勿論ナリ故ニ其一人死去スルハ相續人ニ於
 テ之レニ代ルヲ得又隨意ニ其共有ノ權ヲ他人ニ
 譲リ渡スヲ得ヘシ但シ遺物相續ノ場合ニ於テハ
 民法第百四十一條ニ隨ヒ他ノ相續人等ヨリ讓受
 人ノ支拂フタル代價ヲ償ヒ之レヲ退去セシムルヲ
 得ヘキハ格別ナリトス
 蓋シ法律上相續人ニ限リ此ノ特權ヲ附與シタル所

以ハ他人チシテ相續ニ加入セシムルハ家族ノ密
 事チ他人ニ漏泄スルノ憂アルノミナラス全ク縁故
 ナキ他人ノ相續權ヲ讓リ受クルハ專ラ射利ノ念ニ
 出ツルヲ以テ分派ノ際ニ當リテハ一步モ讓ルイテ
 肯セズ遂ニ親族中平穩ニ整理スヘキ遺物ノ分派モ
 之レカ爲メニ爭テ生シ訴訟ヲ増加スル等ノ弊害ア
 ルカ故ニシテ到底共有ニ於テハ此特別ノ規則ヲ除
 クノ外會社ニ反シテ隨意ニ其權利ヲ他人ニ讓渡ス
 可ク得ヘキモノトス

第九回

今回ヨリ總論第二ノ區別タル民事會社ト商事會社ト
 ナ分別スル利益ヲ説クヘシ

第二 民事會社ト商事會社ト分別スルノ利益

凡ソ會社ニ三種アリ其民事ニ關スル事業ヲ目的トス
 ルモノヲ民事會社ト稱シ商事ニ關スル事業ヲ目的ト
 スル者ヲ商事會社ト稱ス而シテ會社ノ性質ヲ識別ス
 ルニハ專ラ其目的及ヒ其事業ノ性質ヲ問フヘシ其外
 形ニ注目スヘカラス故ニ其目的ニシテ第六百三十二
 條以下ニ記列スル商賣ノ業ヲ營ムニアレハ則チ之レ
 ナ商事會社トシ又鑛山開鑿ノ業荒地開拓ノ業耕地改
 良ノ業其他不動産賣買又ハ建築請負ノ如ク總テ該條

以下ニ記載セサル所ノ事業ヲ以テ目的ト爲スモノナ
レハ民事會社ト看ルヘキナリ

今何ソノ爲メニ民事會社ト商事會社トヲ分別スルヤ
ト云ヘハ則チ左ニ列叙スル所ノ利益アレハナリ

一 民事會社ハ一般ノ規則ニ依リテ處置シ敢テ特別
ノ規則ナキカ故ニ民法第千八百三十四條ニ從ヒ其
經營スル所ノ目的百五十一「フラン」ヲ超ヘサル以上ハ
其契約ヲ証スルニ證書ヲ要セス且ツ之レヲ廣告ス
ルニ及ハスト雖ヒ商事會社ハ之レニ反シ一般ノ規
則ノ外仍ホ特別ノ規則アリテ之レヲ創立スルコトハ
下文ニ述フル如ク其目的百五十一「フラン」以下ナリト
雖ヒ尙ホ證書ヲ記シ且廣告ヲナサ、ル可ラス

二 民事會社ハ前ニ述ヘタル如ク不動産ヲ以テ其事

業ノ目的トナスコトヲ得ヘシト雖ヒ商事會社ハ全ク
之レニ反シ其目的トスル所ハ金銀商品ノ如キ動産
ヲ取扱フニ限ル可ク不動産ヲ以テ目的トナスコト
得ス

蓋シ商業ハ其取引ノ迅速ニシテ安穩ナルヲ要スルモ
ノナレハ動産ハ轉移容易ニシテ之ヲ取引スルヤ別ニ
法式ヲ踐ムコトヲ要セス且ツ即時期滿得免アルニ依
リ苟モ引渡シテ了スルハ再ヒ之レヲ取戻サルハ
ノ憂ナク實ニ其取引迅速安穩ニシテ商業ノ目的ニ
適スレハ不動産ハ之レニ反シ其授受コトニ法律ニ
定メタル法式ヲ踐ムコトヲ要スルニ依リ啻ニ取引ノ

迅速ナルヲ得サルノミナラス、其期滿得免ノ如キ
 モ三十年ナルヲ以テ其時間ハ何人ノ手ニ渡ルモ眞
 正ノ所有者ヨリ之レカ取戻ヲ訟フルヲ得テ之レ
 ヲ買得タルモノハ何時取戻サル、ヤモ圖ルヘカラ
 ス實ニ安穩ヲ保ツヲ能ハサレハナリ故ニ法律ノ明
 文ニ於テモ商業ノ事ヲ説クニ絶ヘテ不動産ノ事ニ
 及ハス只商品穀物等ノ賣買ヲ云フノミナリ

三 民事會社ニ於テハ民法第千八百六十二條及ヒ第
 千八百六十四條ニ依リ其社員ハ支配人ニ特別ノ權
 利ヲ附與シタルニアラサレハ其支配人カ他人ト契
 約シタル義務ハ會社ニ於テ負擔スルヲ要セスト
 雖モ商事會社ハ之レニ反シ其支配人ノ權ハ更ニ廣

大ニシテ支配人ノ契約シタル義務ハ會社ニ於テ其
 責ニ任セサルヲ得ス

四 民事會社ハ社員カ他人ト取結ヒタル契約ニ於テ
 特別ノ約束アルニ非レハ其義務ヲ連帶負擔スルニ
 及ハスト雖モ商事會社ハ之レニ反シ假令ヒ特別ノ
 契約ナキモ社員一同連帶シテ之レヲ負擔セサルヲ
 得ス

五 民事會社ニ於テ負債ヲ支拂フヲ能ハサルノ場合
 ニ立至リタルハ財産差押ヲ受クルノミナレモ商
 事會社ニ於テ其支拂ヲ停止シタルハ直チニ家資
 分散ノ處分ヲ受クヘシ

六 民事會社ニ於テハ其社員ト計算ノ任ヲ受ケタル

モノトナ問ハス總テ通常期滿得免ノ規則ニ從ヒ三
 十年ヲ經過スルニ非レハ社外人ニ對スルノ義務ハ
 之レヲ免レスト雖モ商事會社ハ之レニ反シ其計算
 人ヲ除クノ外各社員ハ五年ノ期滿得免ヲ有ス此ノ
 事ハ尙ホ第六十四條ニ於テ詳説スヘシ

七 民事會社ノ社員中ニ爭訟ヲ生シタルモ民事裁
 判所ノ管轄ナリト雖モ商事會社ノ社員ノ間ニ起リ
 タル所ノ爭論ハ商法裁判所ノ管轄ナリ

八 民事會社ヲ以テ無形人ト爲スヘキヤ否ノ問題ニ
 付テハ議論頗ル多端ニシテ未ダ一定ノ確説アラサ
 レトモ商事會社ハ無論獨立ノ無形人ト爲スヲ以テ
 會社ノ權利ト社員ノ權利トニ判然タル區別アリテ

二者各別ノモノナリトス

商事會社ヲ以テ無形人ト爲スノ根據ハ專ラ民法第
 五百二十九條ニ(錢量、貿易、工作ノ會社ニ加ハリタル
 株式及ヒ得益權ハ其會社ニ於テ興作ニ關シタル所
 ノ不動産ヲ所有シタル時ト雖モ之レヲ動產ト看做
 スヘシ)トアルニ依ルナリ抑モ錢量、貿易、工作等ハ第
 六百三十二條ニ掲ケタル商業ナルヲ以テ此レ等ノ
 業ヲ營ム會社ハ即チ商事會社タリ而シテ其社員ノ
 權利ハ假令會社ニ於テ不動産タル資本ヲ所有スル
 モ尙ホ之レヲ動產ト見做スヘシト云フ以上ハ其資
 本タル不動産ノ所有者ハ社員ノ外ニ在リト看做サ
 ルヲ得ス即チ其所有者ハ無形人タル會社ニシテ

社員ハ唯々會社ニ對シテ其資本ヨリ生スル所ノ利益ノ分配ト會社ノ解散シタル時其資本ノ分配トヲ要求スル債主權ヲ有スルノミニ止ルト云フノ趣意ナリ

右ニ講シタル如ク商事會社ハ無形人ト爲スニ依リ隨テ左ノ結果ヲ生ス

一 資本ノ所有權ハ會社ニ屬シ社員ハ其資本ニ付キテ所有權ヲ有セス假令ヒ其資本ハ總テ不動産ヨリ成リ立ツモ社員ノ權利ハ唯々會社ニ對スル所ノ債主權即チ動産ト看做スヘシ故ニ結婚ノ婦、幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ民法第二千百三十五條ニ從ヒ其夫又ハ後見人等ノ不動産ニ對シ法律上書入

質ノ特權ヲ有スト雖ヒ其夫又ハ後見人等カ會社ニ差加ヘタル不動産ニ對シテハ特權ヲ有スルコト能ハサルナリ

二 社外ノ者ヨリ會社ニ對スル義務ト社員ヨリ其社外ノ者ニ對スル義務トハ之レヲ相殺スルコトヲ得ス何ントナレハ凡ソ義務ノ相殺ハ双方互ニ權利者ヨリ義務者タルノ場合ニ限リ之レヲ爲スヘキモノナレニ今會社ト社員トハ各自獨立ノモノニシテ會社ノ權利ハ當時無形人タル會社ニ屬シ社員ノ義務ハ社員一己ニ於テ擔當スヘキ道理ナレハナリ例ヘハ茲ニ余ハ會社ニ對シ一萬圓ノ義務ヲ負ヒ又其會社ノ社員ニ對シ一萬圓ノ債主權ヲ得タル時ハ余カ

會社ニ對スル義務ト其社員ニ對スル權利トハ同一ノ金額ニ係ルヲ以テ双方之ヲ相殺スレハ即チ出入ナシシテ可ナルカ如クナレトモ余ハ無形人タル會社ニ對スル負債者ニシテ其社員ハ余ニ對スル一己ノ負債者ナレハ其負債ハ互ヒニ相殺スルヲ得サルカ如シ

三 會社ノ資本ハ獨リ會社ノ債主ノ抵當ト看做シ社員一己ニ對スル債主ハ會社ノ債主ト共ニ其資本ノ分配ヲ受クルヲ得ス是レ債主ハ各自ニ其義務者ヲ異ニスルヲ以テナリ但シ會社ノ債主ニ於テハ若シ會社ノ財産ニテ不足アルキハ其權ヲ社員一己ノ財産ニ及ホシテ社員ノ債主ト共ニ分配スルヲ得

ヘシ

四 會社ノ事業ニ關シ他人ト爭論ヲ生シタルハ其訴訟ハ社員ノ責ニ在ラスシテ會社ノ責ナリ故ニ訴訟法第五十九條ノ第五項同第六十九條ニ依リ其召喚狀ハ獨リ會社ノ住所ニ送達シテ之レヲ會社所在ノ地ノ裁判所ニ喚出スヘシ而シテ社員一同出席スヘキコトアラス唯タ會社ノ支配人會社ノ名代人トシテ答辨スヘシ

以上講述スル所ニテ全ク總論ヲ終レリ依テ是レヨリ商事會社ニ關スル規則ノミヲ講説スヘシ

三三 一 第十九條 法律上ニテ商業會社ノ三種ヲ認ム
合名會社

差金會社

無名會社

是レナリ

本條ニ據レハ法律上ニテ認メタル商事會社ニ合名會社、差金會社、無名會社ノ三種アルヲ知ルヘシ

第一 合名會社トハ各社員其私財ヲ舉ケテ會社ノ負債ニ充テ連帶無限ノ責任ヲ負フル者ナリ故ニ之レヲ人間會社ト稱ス蓋シ其主要人ニ存スルヲ以テナリ

第二 無名會社トハ各社員其會社ニ差加ヘタル資本高ニ至ルマテノ外會社ノ負債ヲ擔當セサル有限責任ヲ帶フル者ナリ故ニ之レヲ物件又ハ資本會社ト稱ス蓋シ其主要財産ニ存スルヲ以テナリ

第三 差金會社トハ社員ノ一部ハ「事務擔當人」ト稱シ合名會社ノ社員ノコトク連帶無限ノ責任ヲ負ヒ他ノ一部ハ金主ト稱シ無名會社ノ社員ノコトク其差加ヘタル資本高ノ外會社ノ負債ヲ擔當セサル者ニシテ此二種ノ社員合同シテ一社ヲ結成シ恰モ合名會社ト無名會社トヲ混同シタルカ如キモノナリ故ニ之レヲ人間資本會社トモ稱ス可シ

本條ニ至リ余條ヲ隔テ第四十七條ニ至リ共分會社ト名ケタル第四種ノ會社ヲ認メタル蓋シ此會社ハ前三種ノ會社ト大ニ其性質ヲ異ニスルヲ以テ彼此ノ混同ヲ避ケンカ爲メ別ニ之レヲ後條ニ記シタルナリ其詳細ニ至テハ該條ニ就テ説明スヘシ

又此商法頒布ノ後チ屢々會社ニ關スル法律ヲ布告セ
 リ因テ今其重要ナルモノヲ左ニ擧クヘシ

一 千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ以テ初テ株式差金會社ナルモノヲ認可シタリ然レモ此法律ハ其規則ノ宜キヲ得サリシヨリ大ニ弊害ヲ生シ遂ニ千八百六十七年七月廿四日ノ法律ヲ以テ之ヲ改正シ大ニ該會社ニ制限ヲ加ヘタリ

一 千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ以テ社員相互ノ間ニ生スル所ノ爭訟ヲ判斷人ニ任シ來リシ商法ノ規則ヲ廢止シ更ニ之ヲ商法裁判所ノ管轄ニ歸セシメタリ

一 千八百六十二年七月二日ノ法律ヲ以テ手形賣買

世話人が其業ヲ經營スル爲メ金主ト差金會社ニ類スル一種ノ結社ヲ爲スヲ許シタリ

一 千八百六十七年七月廿四日ノ法律ヲ以テ資本増減會社ト名ケタル一種ノ會社ヲ認メタリ然レモ此會社ハ商事ヨリ寧ロ民事ニ關スルモノ多ク且其構成ノ如キモ前ニ述ヘタル三種ノ會社ノ範圍ヲ出サルモノニシテ或ハ合名會社ノ構成ニ依リ或ハ差金會社又ハ無名會社ノ構成ニ依テ成立ツモノトス

全 明治十七年五月六日版權免許
年八月廿二日 刊行

定價金拾二錢

講義者 島根縣士族

澁川忠二郎

大阪府西區江戶堀上通
壹丁目拾番地寄留

出版人 大阪府平民

梶田喜藏

大阪府東區南本町四丁目
拾六番地

出版人 全

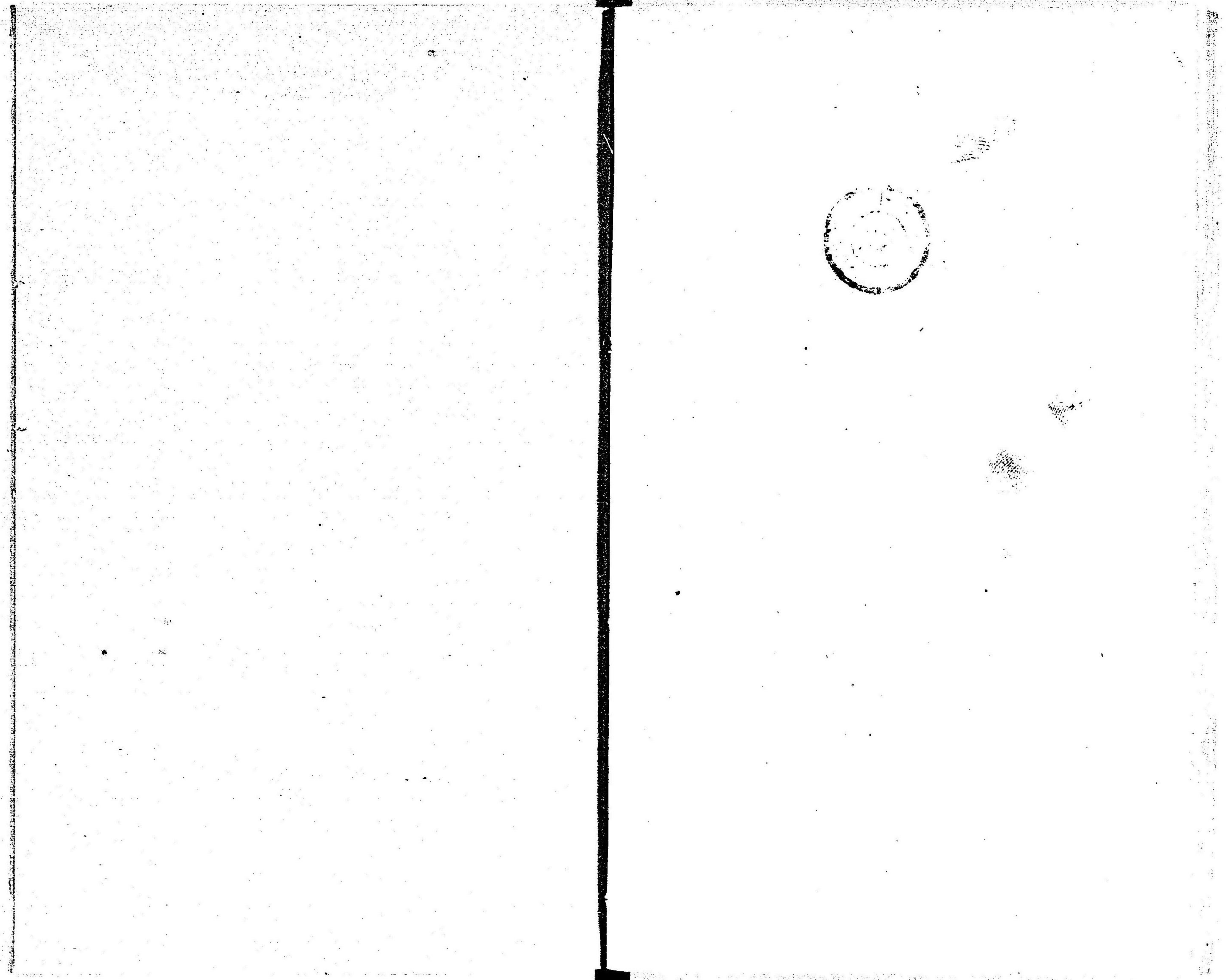
吉岡平助

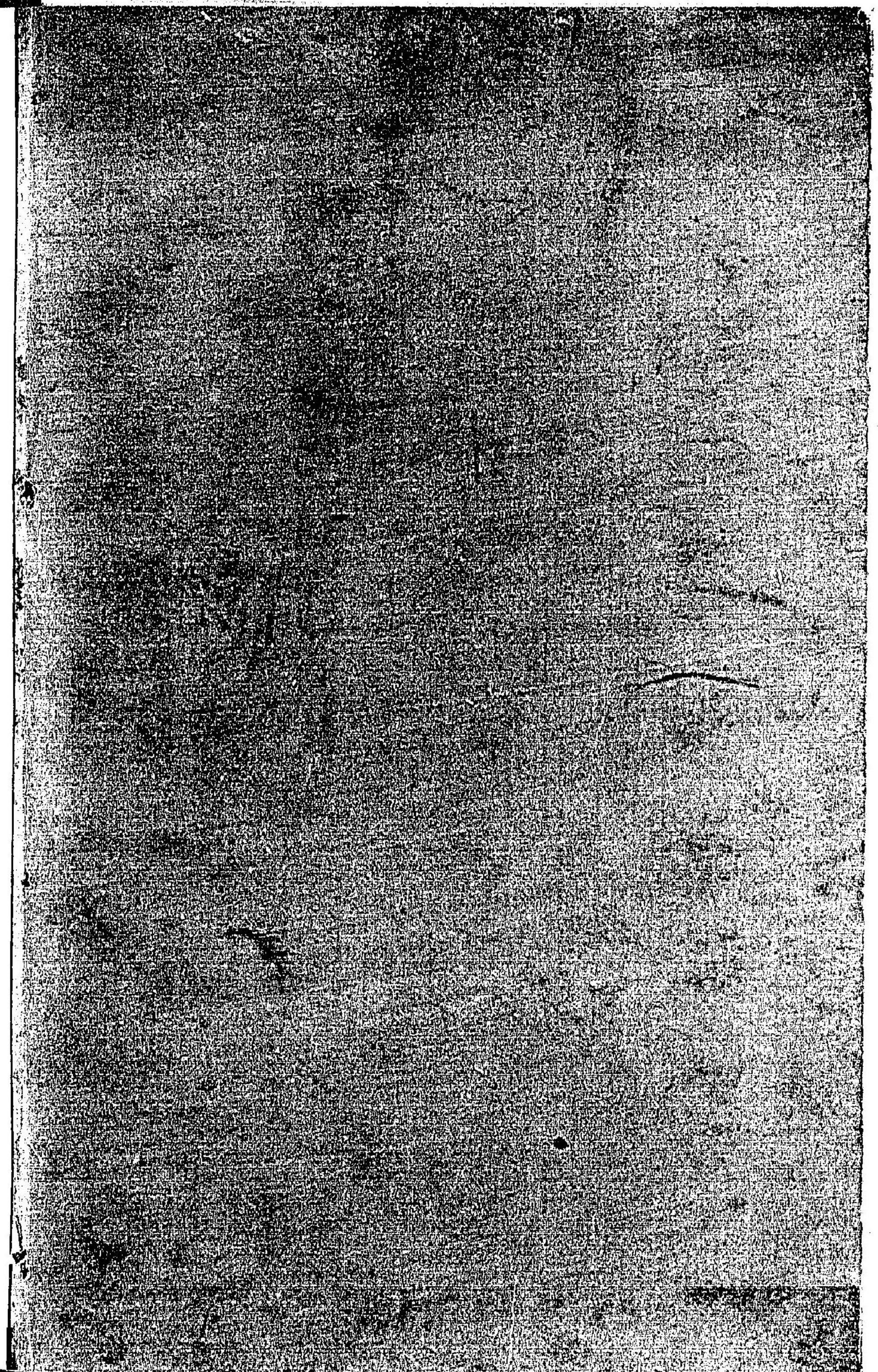
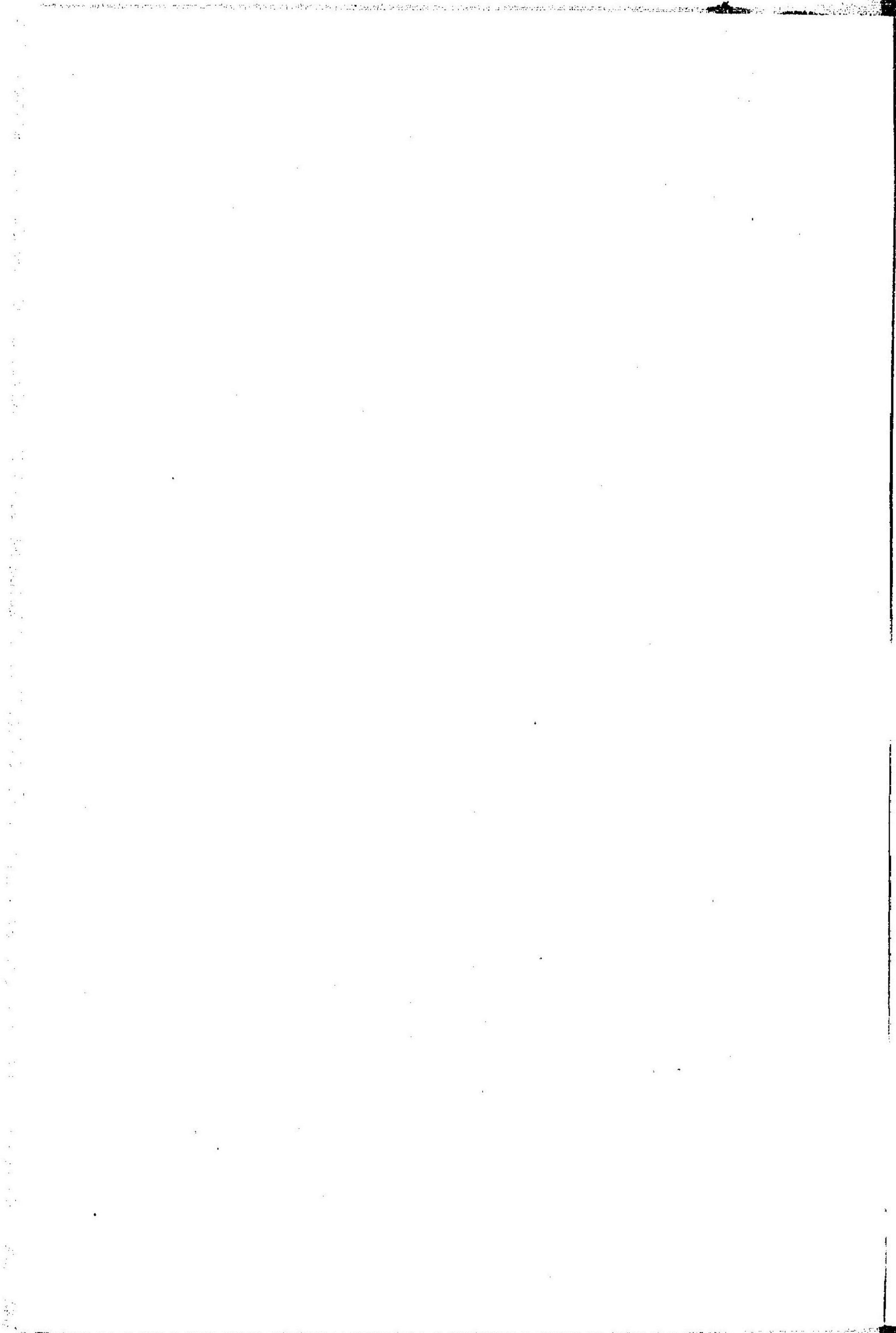
大阪府東區備後町四丁目
三十七番地

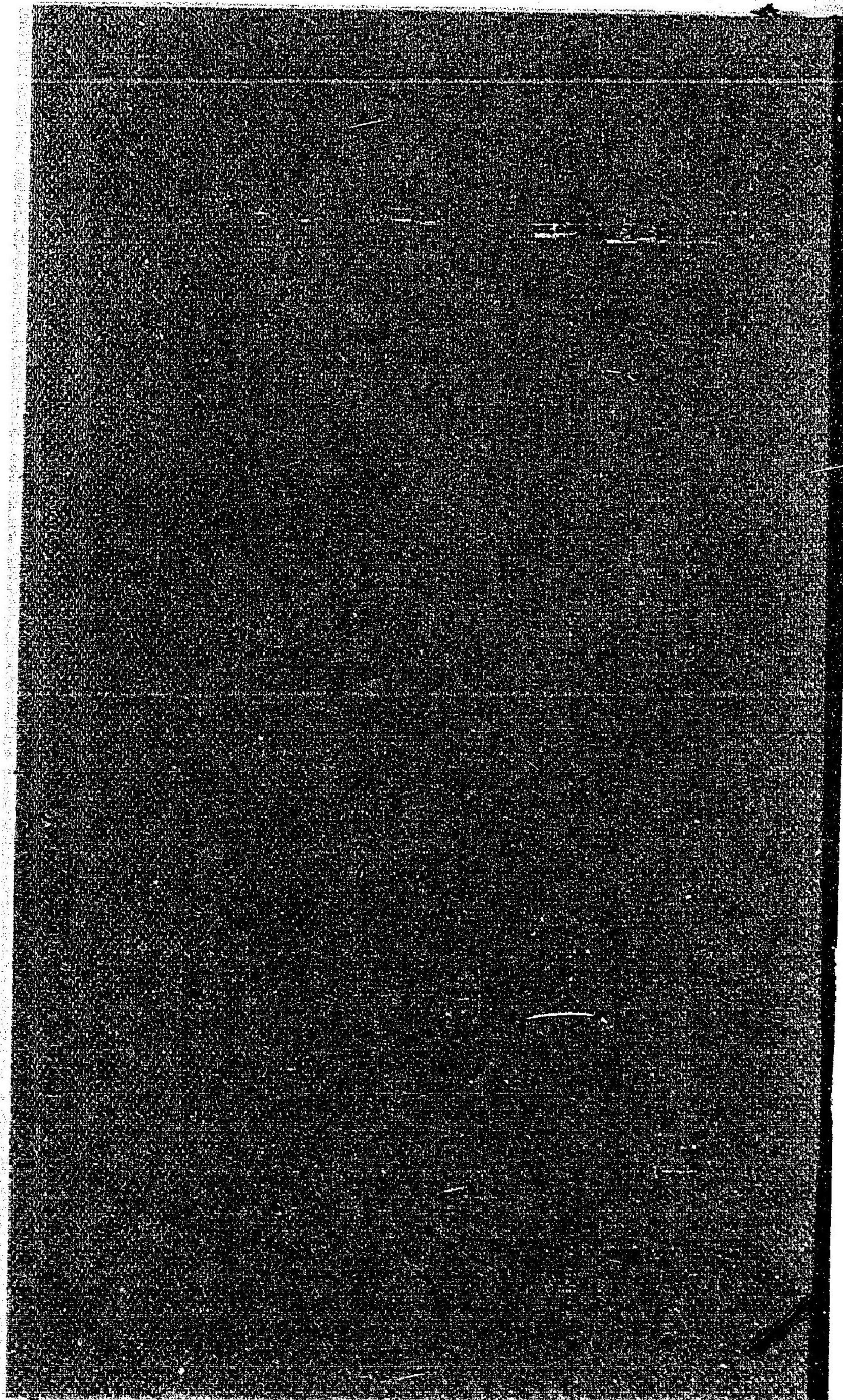
出版人 全

北村孝次郎

大阪府東區本町四丁目
四十八番地







1950

特47

196

佛國商法講義

国立国会図書館

035424-000-4

特47-196

仏蘭西商法講義

渋川 忠二郎 / 述

M17

BBO-0620



